

◆帆苺謙治委員 おはようございます。自由民主党の代表質問の中で、外国資本による森林買収の危機感が広がる中で、規制といいますか、どういう方法があるのかという質問をさせていただきました。その中で、知事は前向きといいますか、条例制定も視野に入れてと、考えを示されました。これは、以前、2年か3年前にわが自由民主党も条例制定に向けて勉強会をしたり、そしていろいろ調査した経緯もございまして、それらを踏まえて質問したのです。知事は条例制定を視野に検討を進めてまいりますとおっしゃった背景には、やはりその必要性というものは考えていると思うし、唐突におっしゃったわけではないと思うので、今まで調査した経緯といいますか、そういうことは今までどのようなようになってきたのか教えてください。

◎腰越啓司治山課長 森林売買の条例制定に向けた対応ということです。これまで、まず水資源、給水、上水道とか、工業用水とかいろいろありますが、どういった水資源があるのか。そして、その水資源はどういった森林の範囲であるのかと。それから、その所有形態、あるいはその森林の状況というものを調査していたところでございます。

◆帆苺謙治委員 これは、農林水産部の治山課だけの対応ではないと思うのです。関係する部局というのはいろいろあると思うのですが、どういう課とこれからどのように詰めていくのか、あるいは詰めているのか。関係する部局を教えてください。それから、今後、どのようにやっていくのか。例えば、この次の定例会、あるいは年内をめどにこの条例制定に向けて提案するのか。その辺も教えてください。

◎腰越啓司治山課長 関係する部局、それから今後どうするのかということでございますけれども、関係する部局としましては、水を扱っております県民生活・環境部の関係。それから、土地を所管しております土木部です。そここのところと調整を図りながらやっていくということでございまして、条例化を視野に検討ということでございます。すでに条例を制定している県がございまして、そういったところの事例をよく参考にしながら、それぞれ必要なところで有効な方法につきまして、今、言った関係部局と詰めてまいりたいと考えております。

◆帆苺謙治委員 まだあまりやっていないのですね。知事は割合に唐突におっしゃったきらいがあるのでしょうか。そうするといつごろをめどにということ、まだ考えていないのでしょうか。どうですか。

◎腰越啓司治山課長 めどというのはこれから検討していくということでございます。

◆帆苺謙治委員 だから、いつごろをめどに条例案を提案したいとか、そういう目標設定というのはありますかということを知りたいのです。

◎腰越啓司治山課長 今はその目標設定というものを、この前の知事の答弁でも条例化を視野に検討ということで、目標設定も含めて関係部局とこれから検討していきたいということでございます。

◆帆苺謙治委員 これは重要な問題だと思いますので、早晩に詰めてもらえればありがたいなと思っております。ノウハウがなかったら、自由民主党でもけっこう資料を持っていますから、勉強に来てください。

もう一点伺います。昨日も高橋委員だったでしょうか、にいがたフード・ブランドの件について質問があったようでありますけれども、越後姫について質問させていただきます。越後姫というのだから、新潟の品物で、新潟県で研究開発したしろものだと思いますが、どこかから輸入したものではないのですよね。それから、いつごろから、こういうものを研究し、そして栽培し、売り出してきたのか。私も、以前の選挙区は田舎のほうで、紫雲寺とか、聖籠とかも選挙区でありましたが、紫雲寺あたりはものすごく作っていたような気がするのです。10年以上前でしょうか。私もけっこうもったりもしたけれども、大きいものだなと思って、おいしく頂いた経緯がございますが、いつごろからこういう研究をして世に出てきたのでしょうか。

◎岡村均技監(農林水産部) 越後姫につきましては、新潟県農業総合研究所園芸研究センターにおいて育成されたものであります。ただ、いつからどのような形でというのは、少し資料を確認させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の育種・開発についてでありますけれども、今、技監が申しあげましたように、園芸研究センターで研究されまして、平成8年に品種登録をいたしました。そういった中で、そのころから新発田市ですとか、新潟市を中心に現場で生産が始まっております。

◆帆苺謙治委員 県もけっこう越後姫に力を入れているということなのですか。そして、しばらくといたしますか、けっこう長くといたしますか、今回の来年度当初予算案でもまた、けっこう予算をつけています。平成22年度くらいから、越後姫の生産拡大に向けて、施設とか、機械に補助を出すという支援を行ってきていると聞いておりますけれども、今、これまで力を入れてきた中で、例えば、どの程度の申請があったのか。そして、どの程度のお金を使ってきたのか。その辺、分かりますか。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の事業の活用状況でございますけれども、平成22年度から3年間の申請実績ということで、35件ございます。また、県費の執行額ということで、3年間合わせまして約1億5,000万円になっております。

◆帆苺謙治委員 当然、力を入れてきて、35件もあったということなのですが、そのほかにも県の資金を使わなくてもやっているところもあると思います。そういうことからすると、全体で把握しているのかどうか分かりませんが、こういうずっと右肩上がりにきた生産量ですが、トータル的にどの程度の栽培面積があるのか。あるいは生産者数はどの程度なのか。現在のものが分かったら教えてもらいたいと思います。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の県全体の生産の面積と農家数ということかと思います。面積につきましては、今、申し上げました事業の活用などで年々増えまして、現在、約33ヘクタールでございます。また、生産者数ということで、私ども、調査の中では約350人ということ把握しているところでございます。

◆帆苺謙治委員 把握しているというのは、要は県の資金を使わないところも入っているということで理解していいのですか。その把握はどのようにしているのですか。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の生産者と事業の活用人数の関係であります。まずは状況について、各地域振興局でJAなどにも協力いただきながら、毎年、調査をさせていただいているところであります。また、県の事業の活用なく、また自力でやられるかたもございます。ただ、そういった中で、私どもは今、越後姫を進めているということで、全体として波及効果もあり、増えているというように認識しているところでございます。

◆帆苺謙治委員 この約33ヘクタールで今、やっていると。今後も伸びるような方法といえますか、そういう施策を打っていますから、当然、伸びていくと思うのですが、どの程度までなのか。100町歩くらいやるつもりなのですか。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の面積についての目標ということでございます。現在、約33ヘクタールでございますが、近年、事業を使いまして、毎年80アールから1ヘクタールくらい伸びているところでございます。また今後、伸ばしていきたいという中で、事業を活用して、その波及効果で、大体、1年間でそういったくらいの伸びを今、目指しているところでございます。

◆帆苺謙治委員 私は少し意味が分からなかったのだけれども、大体、33ヘクタールくらいがいいと思って、33ヘクタールで打ち止めということを考えているのですか。それとも、幾らでも伸ばしていこうという考えなのですか。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の面積の増加の考え方でございますけれども、33ヘクタールでとどまることなく、越後姫というのは首都圏、あるいは県内で需要があるということで拡大していきたいと思っておりますので、目標としては今以上に拡大をしていきたいと思っております。

◆帆苺謙治委員 私はまた、33ヘクタールでやめてしまうのかと思ったのですけれども、そうではないのですね。これからもずっとやっていきたいということなのですね。ということは、来年度も予算づけがあるのだと思いますが、こういうことからすると、そういう方向で、来年度もまた一つの大きな、今年度並み、あるいはそれ以上に力を入れていくのか。その辺の方針も聞かせてください。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の拡大についてでございますけれども、来年度に向けましても、新成長プロジェクトということで、本年度並みの予算をつけまして、拡大に向けて力を入れていきたいと考

えております。

◆帆苺謙治委員 商売というのは、やはり自助努力によって販路を拡大したりしていくと。これは当然だと思うのです。だけれども、県の果たす役割もあると思うのです。阿賀野市もどうなのか、五つばかりの生産法人といいますか、そういうものができたみたいなのです。横のつながりとか、あるいはJAにばかり売らないで、例えば安田地区であればヨーグルト屋に出して、いちごの入ったヨーグルトを作ったりして、けっこう高いけれども人気があります。そういうところとか、あるいはケーキ屋さんと提携しているとか、そういう自助努力もいっぱいあると思います。それらを含めて、サポートといいますか、そういう県の果たす役割といいますか、東京事務所もあるし、表参道・新潟館ネスパスなどもあるのだけれども、そういうことも踏まえて、県の販路拡大についてのスタンス、どうしているのか。実践しているのでしょうか、今の実践を含め、今後、どういう展開をしていくのか、お聞かせ願いたいと思います。

◎福原実食品・流通課長 越後姫の販路拡大についての御質問かと思えます。県では、越後姫の販路拡大ということで、主に首都圏に対して越後姫等の県産農産物を使っていただけるお店を開拓しております。そこに対してマッチングをして、レストランとか、いろいろな百貨店などで越後姫を使っていただくという取組をやっております。さらに首都圏のレストラン、デパート等から現地に来ていただいて、産地見学会を開催しまして、現地での越後姫をはじめ、いい物を首都圏で使っていただくようなマッチングの取組もしております。越後姫は生鮮だと使える期間が限られてきますので、加工品化して通年で越後姫を食べられるような商品開発もしております。さらに来年度におきましては、クリスマスの時期が、越後姫といいますか、いちごの需要がいちばん伸びる時期でございますので、その時期に収穫できるよう、地中熱を使って、超促成栽培の取組などを進めるとともに、さらに高く売れるように、販路拡大については、首都圏の高級百貨店での販路開拓にも取り組んでいきたいと思っております。

◆帆苺謙治委員 私が聞こうと思ったことを全部しゃべってくれまして、ありがとうございました。

本当にクリスマスのがピークなのだそうです。そうすると足りないのではないとか、売れないときどうするのかとか、あるいは捨てる物があるのではないとか、私は素人ですので、そういう心配をしていました。何か加工するとか、そういう話もしていただきましたが、現実的に生産農家のかたが足りなくてどうしようもないとか、あるいは余ったから捨てたというような事例があったら教えてもらえますか。

◎福原実食品・流通課長 ブランド品の販売ということであれば、必要なときに必要なものを適切に供給できるという体制が非常に重要だと思っておりますが、中には加工品化できないものもあると聞いたことがあります。

◆帆苺謙治委員 冒頭に私も申し上げましたけれども、有限会社ヤスダヨーグルトは年間を通してやっているけれども、そういう方法を新潟県農業総合研究所食品研究センターあたりで研究するとか、そういう方法も一つ。せっかくおいしいのだから、捨てることのないような方法をサポートしてもらいたい

と思っております。私もいちごをけっこう食べるようになりました。あんなおいしいものだとは思いませんでした。あれは、食べる時、へたを取って裏側から食べるとおいしいのだそうですけれども、どうしてなのですか。

◎畔上恵子農産園芸課長 越後姫の食べ方でありませけれども、今の委員の言われる部分というのは、先端のほうが糖度が高いという傾向がございますので、へたの部分から食べて、しっかり先端で味わうということがあるのかとは推測いたしますけれども、いちごの食べ方については、決まったものはございませんので、それぞれ自由な食べ方で食べていただくということではないかと思えます。

◆帆苺謙治委員 ありがとうございます。あれはやはりおいしいほうから食べる人と、おいしくないほうといますか、そちらから食べておいしいのを残す人と二通りあるのだそうです。だけれども、裏側から食べると満遍なくおいしくなるのだというように聞きました。

最後にしますが、この越後姫と同様に、魚とか、そういうものもあると思うのですが、南蛮エビとか、にいがたフード・ブランド品目は八つあると聞きましたけれども、全部教えてくださいませんか。

◎福原実食品・流通課長 県では、県内の農林水産物の価値を高める、競争力を高めるということで、コシヒカリ以外にも8品目をイメージリーダーとして、その品質を磨き、知名度を上げることによって、県全体の農産物の評価を高めていくという趣旨で8品目を設定しております。まず委員がおっしゃった越後姫、南蛮エビのほかに、ル レクチエ、えだまめ、ヤナギガレイ、寒ブリ、にいがた和牛、にいがた地鶏の8品目でございます。

◆帆苺謙治委員 それは、やはりみんなおいしいですね。それはやはり新潟県の顔として売っていくということなのですね。

もう一つは、減反したところにそういうものができないのかと。例えば、米以外を作付けしたところには、しばらく米ができないとか、いろいろなことがあると思うのですが、魚とか、そういうものは減反したところには無理なのだろうけれども、この八つの品目の中で、どういうものがあるのでしょうか。

◎畔上恵子農産園芸課長 転作の部分でのにいがたフード・ブランドの品目の作付けの状況でございます。特に転作を利用してえだまめの作付けが多くなっております。また、一部、ル レクチエでも古くは転作を利用した中で作付けされております。